

この世のビジョン

聖書：Ⅰヨハネ 2:15-17. ヤコブ 4:4. エペソ 2:1-3, 12 後半. ガラテヤ 1:4. ローマ 12:1-2

- I. Ⅰヨハネ第2章15節から17節とヤコブ第4章4節の「世」というギリシャ語が示しているのは、秩序、固定した形式、秩序ある案配であり、このゆえに、それは地ではなく、秩序ある体系（神の敵サタンによって立てられた）を示します。この世はサタンによって体系的に案配された邪悪な体系です：
- A. 神はご自身の定められた御旨を成就するために、人を創造して地に住まわせられました。しかし神の敵サタンは、神の創造された人を強奪するために、この地上に神に敵対する世の体系を形成しました。それは宗教、文化、教育、工業、商業、娯楽などを用いて人を体系化することによって、また人の情欲、享楽、追求における、さらには人の生活の必要（衣、食、住、交通手段）を放縱することにおける人の墮落した性質を通して人を体系化することによってです。
 - B. このようなサタンの体系全体は、邪悪な者の中に横たわっています（Ⅰヨハネ 5:19. 参照、エペソ 6:12）。このような世を愛さないことは、邪悪な者に打ち勝つための立場です（参照、Ⅰペテロ 3:3-4. 啓 2:12-13 前半, 17）。ほんの少しでもこの世を愛するなら、邪悪な者にわたしたちを打ち破り、占有する立場を与えてしまいます。
 - C. サタンは物質の世、この世の人、この世の中にあるものを利用して、最終的に反キリストの王国の中へとあらゆるものを帰しています。そのとき、この世の体系はその頂点に達し、そのとき、そのあらゆる構成単位は反クリスチャンのものであることが明らかにされます。最終的に、この世の王国は「わたしたちの主と彼のキリストの王国と」なります——ⅠⅡテサロニケ 2:3-12. ダニエル 2:44-45。
 - D. 地上のすべてのもの、特に人と関係のあるもの、また空中にあるすべてのものはサタンによって彼の暗やみの王国の中へと体系化されました。それは、人々を占有し、彼らが神の定められた御旨を完成するのを妨げ、神を享受することからそらすためです。この世はサタンが用いて、わたしたちを惑わし、欺く彼の仮面です。
 - E. この世は父なる神に敵対しており、この世の中にあるものは神のみこころに敵対します（Ⅰヨハネ 2:15-17）。この世は神に敵対しており、この世を愛する者たちは神の敵です（ヤコブ 4:4）。
 - F. 「だれでも世を愛するなら、御父への愛は彼の中にありません」（Ⅰヨハネ 2:15）。究極的に、わたしたちがこの世のものに触れるとき、常に自問しなければならない質問があります。それは「このことがわたしと御父との関係にどのような影響を与えるか？」ということです。
 - G. 主の体が十字架につけられることによってその支配者であるサタンが追い出されたとき、この邪悪な体系、暗やみの王国は裁かれました——ヨハネ 12:31-32. 16:11。
 - H. ガラテヤ第6章14節が啓示しているのは、この世がわたしたちに対して十字架につけられ、わたしたちがこの世に対して十字架につけられたということです。このことは直接起こったのではなく、十字架につけられたキリストを通して起こりました。15節は、このこの世がおもに宗教の世界であることを証明しています（参

照、1:3-4)。

II. カインは神の面前から去った後（創 4:16）、彼の保護と自ら存在することのために、町を造りました。彼はこの町の中で、神のないこの世的な文化を生み出しました（17節）：

- A. 神は園の中で、人のすべて、すなわち人の保護、維持、供給、娯楽でした。人は神を失ったとき、すべてを失いました。
- B. 人が神を失ったことは、人に強いて人のこの世的な文化を發明させました。その主要な要素は、生存のための町、生計を立てるための牧畜、娯楽のための音楽、防衛のための武器でした——20-22節。
- C. 創世記第4章で發明された神のない文化は、繼續して發展し、大いなるバビロンにおいて頂点に達します——啓第17章—第18章。

III. 出エジプト記が啓示しているのは、神がこの世のあらゆる形の強奪と夢中にさせるものから彼の選びの民を救い出すことを願っておられるということです。それは、彼らが神ご自身以外のどのようなものも持たないためです——創 50:26. エペソ 2:1-3, 12後半. ガラテヤ 1:4：

- A. 救われるとは、神以外の何もない所までもたらされることです——参照、マルコ 9:7-8。
- B. 神は荒野で、特に神の山であるホレブの山で、彼の選びの民の中心、目的、命、家、あらゆるものでした——詩 90:1。
- C. 神がエジプト（この世）において、彼の選ばれた民に生活の真の性質、意義、結果の啓示を与えたことの意図は、神の民がエジプトを憎み、忌み嫌い、エジプトを後にして去るようにし、彼の住まいのために彼へと分離されるようにするということです——出 5:1. 40:34. ローマ 12:1-2：
 - 1. エジプトの全土にわたって水が血となる災害が描写しているのは、この世の娯楽、享楽を伴うその生活の性質と結果が死であるということです——出 7:14-25。
 - 2. かえるの災害が描写しているのは、この世の生活が厄介で、終わりのない問題の生活であるということです——8:1-15。
 - 3. ちりがエジプトの全土にわたってしらみとなる災害が描写しているのは、この世におけるわたしたちの生活の供給の源が最終的に、大きな不安と極度の苦悩の原因となるということです——16-19節。
 - 4. あぶの群れの災害が描写しているのは、この世の道徳的な雰囲気汚染され、あらゆる種類の汚れと邪悪なもので満たされているということです——20-32節。
 - 5. すべてのエジプト人の家畜に臨んだひどい疫病の災害が描写しているのは、この世の輸送手段と食べる方法が神によって裁かれることと、彼の義の裁きが罪深い状況に関係するものを対処するということです——9:1-7。
 - 6. 灰が細かいちりとなって、人と獣に付いてうみが出る腫れ物となる災害が描写しているのは、墮落した人の生活の残ったどのようなものも神によって対処されなければならないということです——8-12節。
 - 7. 地の産物に損害を与える火と混合された雹の災害が描写しているのは、もしわたしたちがかたくなで、反逆的であるなら、わたしたちと神との関係は破壊され、

彼は雨の霊的な機能を変えて、雹をわたしたちの霊の上に降らせ、また火と雹をもってひどい損害を与えるということです—— 13-35 節。

8. 風がいなごをもたらす災害が描写しているのは、人が神の罪定めの下にあるこの世に生きるときに、サタンが人の生活と人にかかわるあらゆるものの供給を食い尽すということです—— 10:1-20。
 9. エジプト全土に濃い暗やみが臨む災害が描写しているのは、神の臨在の外側にあるこの世の生活がひどい暗やみで満たされているということです—— 21-29 節。
 10. 神がエジプトのすべての初子を裁く災害が描写しているのは、初子としての最初の人であるアダムにかかわるあらゆるものが神によって罪定めされたということです—— 11:1-10。
- D. この世の中にある生活の性質、意義、結果の啓示を受けることによってのみ、またこのような生活に対する神の態度の啓示を受けることによってのみ、わたしたちは真にこの世から分離されて、この世の生活を憎むことができます—— I ヨハネ 2:15-17. ヤコブ 4:4 :
1. この世的であることは神にとって、罪深さよりも悪いのです。罪深さは神の義に敵対していますが、この世的であることは神の義よりも高い彼の聖に敵対しています。
 2. もしわたしたちがこの世の詳細なビジョンを持つなら、それに対する神の態度を知り、自然にそれを愛するのをやめるようになります。
 3. もしわたしたちが地上での神の住まいとなりたいなら、徹底的な方法でこの世を知らなければならず、この世の要素をわたしたちの存在からきよめ去らなければなりません——啓 2:12-13 前半, 17。